

CO2排出ゼロの再生樹脂を販売 小山の協栄産業

(12月12日 05:00更新)

回収ペットボトルから再生樹脂を製造する協栄産業(小山市城東2丁目、古沢栄一社長)は、製造時の二酸化炭素(CO2)排出量を実質ゼロにした再生樹脂「カーボン・ニュートラル・ペレット」の販売を開始した。自然エネルギー開発事業などへの出資を通じて自社が排出したCO2を相殺する「カーボンオフセット」を活用したもので、リサイクル業界では国内初の取り組み。環境に優しい原料をアピールし、新たな販売先を開拓する。

(山根茂生)

同社の再生樹脂は原油から製造した新品樹脂に劣らない品質が業界内で評価され、衣料や洗剤容器、文房具、自動車の内装材などに幅広く採用されている。

同社が第三者機関にCO2排出量の算定を依頼した結果、回収ペットボトルから再生樹脂を作る過程で発生するCO2は1キロあたり0.583キロで、新品樹脂に比べ63%の削減効果があることが分かった。

残る37%のCO2は、カーボンオフセットを活用して相殺した。同社は中国やインドにおける風力発電プロジェクトから計5千トンの排出枠を取得しており、約9千トンの「CO2排出ゼロの再生樹脂」の供給が可能。

古沢社長は「環境配慮に熱心なお客さまと連携して温暖化防止や低炭素社会の実現に寄与していきたい」と話しており、これまで取引の無かった企業などにも働き掛け、同時に新たな用途開発にも取り組む。

